

## 日経新聞「文学周遊」で上田市が

上原 昇（2組）

火坂雅志という名前を知っている人は歴史好きの人かと思います。

2009年にNHK大河ドラマ『天地人』が放映され、若い妻夫木聡が直江兼続を演じたのを見た記憶があります。

その原作者が火坂雅志です。火坂は1955年、新潟県生まれですから我々より若い世代ですが、病気のため58歳で亡くなっています。

彼の代表作の一つに『真田三代』（2011年、NHK出版刊）があり、同期諸氏の中でも読んでいる人が多いことと思います。

前置きが長くなりましたが、その『真田三代』の舞台・上田市が、2月21日（土）日経新聞夕刊、「文学周遊」欄で紹介されています。

<https://www.nikkei.com/telling/DGXZTS00020550Y6A210C2000000/>

当欄を執筆している兼吉毅記者が上田を訪ね、和根崎剛さん（86期、上田市櫓復元室長）の案内で上田城およびその周辺取材しています。

記事の中で「城の東側、現在のの上田高校にあった屋敷は関ヶ原合戦後に上田藩主となった信之が設けたとされるが、最近では昌幸のころから使われていたと考えられている」というくだりが出てきます。

同窓の和根崎さんは、記者を「古城の門」に案内したのだと思います。

この本が刊行された後、著者の火坂は上田市を訪れているとのこと。

その時にも作家を案内した和根崎さんが、「火坂さんは『真田三代』の続編を構想していたようだった」と語っています。作家が存命であれば、『続・真田三代』を手にすることが出来たと思うと、残念な気持ちになります。

やはり、真田モノは今でも根強い人気があることが分かりました。



（2026年2月22日記）

以上

「古城の門」by 成澤文和君